



第87期 中間報告書

平成22年4月1日▶平成22年9月30日

Contents

- P1 株主の皆様へ
- P3 セグメント別概況（連結）
- P5 トピックス
- P7 連結財務諸表
- P9 会社情報・株式情報

株主の皆様には益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

日頃は格別のご支援並びにご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

当社グループはこの9月30日をもちまして、第87期事業年度の上半期を終了いたしましたので、ここに業績の概況をご報告申し上げます。

当上半期の当社グループを取り巻く経営環境は、設備投資の低迷やデフレの継続、円高などの懸念材料があったものの、新興国向け輸出の増加や生産の持ち直し等に支えられ、全体としては緩やかな回復基調で推移いたしました。

このような景況の下で当社グループといたしましては、本年、新たな3カ年のグループ中期経営計画「SFG 2012」(Speed Flexibility Global 2012)を策定し、目標達成に向けた取組を開始しております。

新グループ中期経営計画の初年度に当たる当上半期は、最大量の受注獲得やコストダウン及び生産効率改善に向けた取組を継続して行うとともに、海外向け事業戦略の強化の取組を開始

し、推進してまいりました。

その結果、企業集団の業績（連結業績）につきましては、受注高は362億62百万円（前年同期比26.3%増）、売上高は311億89百万円（同18.5%増）となりました。損益面につきましては、経常損失は前年同期比15億48百万円改善し2億62百万円となり、四半期純損失は前年同期比11億29百万円改善し1億1百万円となりました。

なお、当社グループの事業構造により、公共・社会インフラ等の設備関連機器の売上が下半期に集中する傾向があるため、上半期は通期の業績に対して相対的に低い水準にとどまっております。

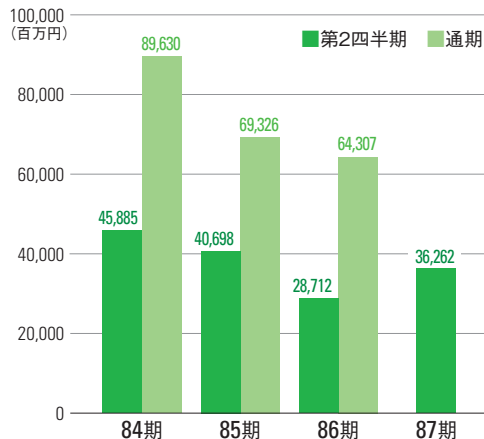
配当は継続的かつ安定的に実施していくことを基本としてお



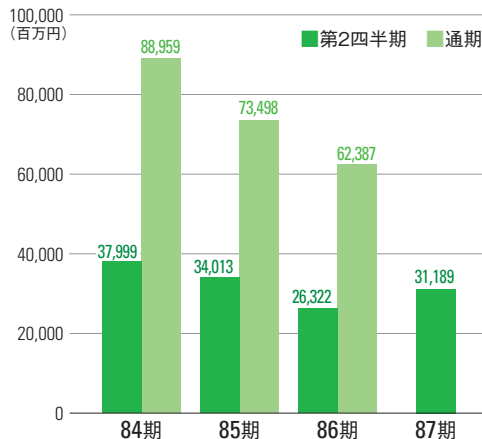
取締役社長

武藤昌三

受注高



売上高



りますが、中間配当につきましては、前述の事業構造及び当社の財務体質を勘案し、実施を見送らせていただきました。株主の皆様には誠に申し訳ない次第でございますが、何とぞご了承を賜りますようお願い申し上げます。

今後の当社グループを取り巻く経営環境は、引き続き緩やかな回復基調で推移することを期待しておりますが、デフレの継続や円高、海外景気の下振れ懸念など景気を下押しするリスクもあり、先行きは不透明な状況であります。

このような情勢の中で当社グループといたしましては、中長期的な取組として『ECOing』（エコで行こう！エコへ移行！）を旗印に、引き続きエコ社会の実現に向け政府のCO₂削減目標に対応した“ものづくり”を推進してまいります。また、グループ中期経営計画「SFG 2012」の下、今後の成長が期待される中国等アジア新興国での事業拡大とともに環境分野での事業創出を行い、既存顧客・市場の変化にも対応し、企業基盤を更に強

化することを重点として推し進めてまいります。

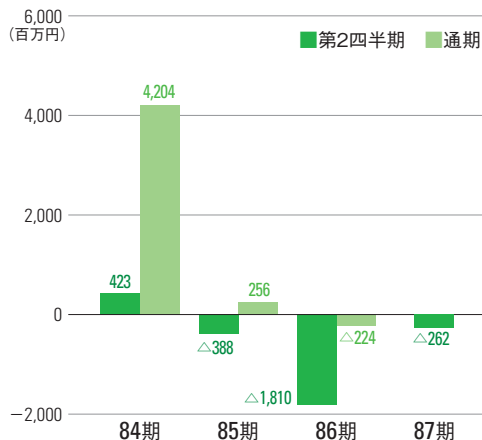
当下半期の取組といたしましては、需要の活発な海外における受注拡大や、海外生産、海外調達の拡大をより一層加速させるとともに、エコ関連を中心とした新製品の開発や販売活動に積極的に取り組んでまいります。また、仕事量の変動にフレキシブルに対応する生産体制の充実や、製品品質の向上に一層注力してまいります。更に、新事業企画部を中心に、将来に向けた新事業の探索や技術開発に注力してまいります。

今後更に、株主の皆様、顧客の皆様から評価していただける企業へと変貌を遂げ、企業価値を高めていくために、引き続きグループを挙げて努力を重ねてまいり所存でございます。

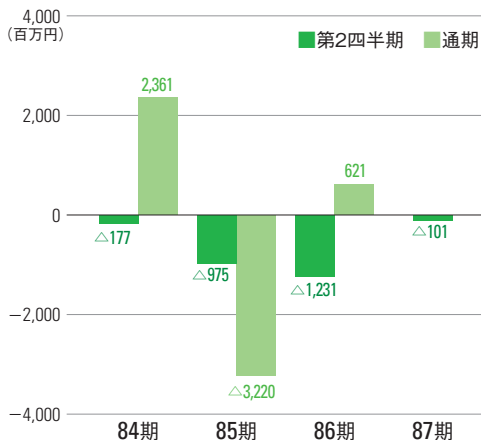
株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年11月

経常利益



四半期(当期)純利益

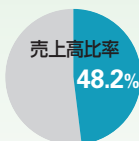


セグメント別概況(連結) Overview by Segment

モーション機器事業

受注高 **157億 2**百万円

売上高 **150億 22**百万円



モーションコントロール機器部門は、FA機器用クラッチや繊維モータ、HDモータが好調であったことにより、受注・売上ともに大幅に増加いたしました。本部門につきましては、産業車両に搭載されている油圧ポンプの駆動用に、強力な永久磁石を組み込んだ高効率のIPMモータを開発いたしました。用途の一つとして、塵芥収集車のゴミ圧縮装置の油圧ポンプはエンジンの回転を利用して従来は駆動していましたが、本モータを用いて電動式の駆動に変更することで、CO₂の削減やエンジン騒音の低減を図ることができます。今後もあらゆる産業車両への展開による受注拡大に注力してまいります。プリンタ部門は、海外向け業務用プリンタが不振であったこと

により受注は大幅に減少し、消耗品も減少したことにより売上も減少いたしました。駅務・車両制御機器部門は、建設機械用電装品が好調であったことにより受注・売上ともに増加いたしました。大型搬送システム部門は、大手エアラインを中心とした航空業界の市況低迷により空港用地上支援車両が減少し、受注・売上ともに減少いたしました。航空宇宙部門は、新型航空機の試作から量産への切替期にあることにより受注は減少し、在来機種用の電装品が減少したことにより売上も減少いたしました。エコ発電部門は、販売拡大に取り組んでまいりましたものの、業績に寄与するには至りませんでした。

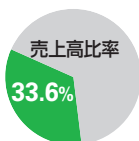


IPMモータ

パワーエレクトロニクス機器事業

受注高 **125億 67**百万円

売上高 **104億 87**百万円



半導体・液晶機器部門は、半導体製造装置用のロボットが好調であったことにより受注・売上ともに大幅に増加いたしました。自動車用試験装置部門は、電気・ハイブリッド自動車向け試験装置等が増加し、受注・売上ともに増加いたしました。振動機部門は、受注・売上ともに増加いたしました。パーツフィータ部門は、精密パーツフィータが好調で受注・売上ともに増加いたしました。本部門につきましては、液晶テレ



監視制御システム

ビの大型化に伴うバックライト等に使用されているチップLEDの大型化等に対応して、従来以上に高速で滑らかに搬送することを可能とした精密パーツフィータを開発いたしました。発電・産業電機部門は、冷凍機用モータ等が増加したことにより受注は増加いたしました



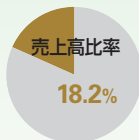
高速搬送用精密パーツフィータ

が減少したことにより売上は減少いたしました。社会システム（官公庁向け電気設備）部門は、受注は減少いたしました。前年度の受注増加の影響等により売上は増加いたしました。本部門につきましては、大規模な水道施設向けに、管轄する複数の施設（取水場、配水場等）におけるポンプの稼働状況や、水位、流量等を一括管理することができる上水用監視制御システムを開発いたしました。

サポート&エンジニアリング事業

受注高 **79億 92**百万円

売上高 **56億 79**百万円



当社全般に関わり、当社の業務及び当社事業に付随するサービス・エンジニアリング業務を主たる事業とする子会社をサポート&エンジニアリング事業としており、受注は増加いたしました。売上は前年並みの低水準で推移いたしました。

(注)「セグメント情報等の開示に関する会計基準」の適用に伴い、セグメントの見直しを行ったため、従来の「モーション精密機器事業」「搬送機器事業」「パワーエレクトロニクス機器事業」の3区分から、「モーション機器事業」「パワーエレクトロニクス機器事業」「サポート&エンジニアリング事業」の3区分へ変更しております。なお、セグメント別の前年同期との金額比較は、本年度よりセグメントを変更したため記載しておりません。

旧セグメント

モーション精密機器	クラッチ、サーボアクチュエータ、プリンタ、駅務・車両制御機器、航空宇宙、連結子会社
搬送機器	半導体・液晶機器、振動機、パーツフィーダ、大型搬送システム、連結子会社
パワーエレクトロニクス機器	自動車用試験装置、発電・産業電機、社会システム、エコ発電、連結子会社

新セグメント

モーション機器	モーションコントロール機器（株）大崎電業社、(株)ダイケンを含む）、プリンタ、駅務・車両制御機器、大型搬送システム、航空宇宙、エコ発電
パワーエレクトロニクス機器	半導体・液晶機器、自動車用試験装置、振動機、パーツフィーダ、発電・産業電機、社会システム
サポート&エンジニアリング	(連結子会社) シンフォニアエンジニアリング(株)、(株)S&Sエンジニアリング、その他サービス会社3社

(注) 旧セグメントの「クラッチ」及び「サーボアクチュエータ」は、新セグメントでは「モーションコントロール機器」となっております。

セグメント	主要な製品・サービス
モーション機器	昇華型デジタルフォトプリンタ、リライタブルプリンタ、宇宙ロケット用電装品、航空機用電装品、駅務関連機器、サーボアクチュエータ、アクティブ制振装置、電磁クラッチ・ブレーキ、鉄道・建設車両用電装品、空港用地上支援車両、超重量物搬送用大型自走台車、小形風力発電システム 等
パワーエレクトロニクス機器	自動車用評価システム、実車衝突実験システム、上下水道電気計装設備、道路管理用電気設備、リフティングマグネット、サブマージドモータ、真空溶解炉、鉄鋼プラント用電気システム、中小形発電機、振動式搬送機器、コーヒー焙煎設備、パーツフィーダ、半導体製造装置用ハンドリング機器、液晶ガラス基板用ハンドリング機器 等
サポート&エンジニアリング	電気・機械設備工事の請負・エンジニアリング、電気機械器具のサービス、病院内搬送システムのエンジニアリング、当社周辺サービス・福利厚生関連業務、倉庫・運送業、経理・給与業務・設計業務の受託、労働者派遣業、ソフトウェアの開発、OA機器の販売 等

世界初、昇華型両面プリンタを開発

当社はこのほど、昇華型フォトプリンタとしては世界初となる、両面プリントを実現した昇華型両面プリンタ『Color Stream D3』を開発いたしました。

銀塩写真と同等の高画質で高速なプリントが可能であるとともに、保存性に優れた当社の昇華型プリンタは、納入台数において世界トップクラスの実績を有しております。

近年、デジタルフォトプリント市場では、好きな写真を1枚ごとにプリントするだけでなく、店頭で1冊のフォトアルバムを作製することができるプリントサービスが普及しつつあります。このフォトアルバムを作製する際には、画質や保存性の面から昇華型プリンタが使われておりますが、従来のプリンタでは片面プリントしかできないため、製本時に折り加工や2枚のページを張り合わせて1枚にする作業が必要となり、手間がかかることやフォトアルバムがかさばってしまうことが問題となっていました。

今回商品化した昇華型両面プリンタ『Color Stream D3』では、世界に先駆けて独自に開発したメカニズムの採用により、1台のプリンタで用紙両面へのプリントが可能であるため製本の作業効率を改善でき、また、両面プリントのため紙の使用量が半減し、薄くてかさばらない低コスト



Color Stream D3

なオリジナルフォトアルバムを作製することが可能となりました。更に、当社独自のツインヘッド方式により、鮮やかな彩りの立体的な金色・銀色等の特色プリントを重ねてプリントすることもでき、フォトアルバムを一層美しく仕上げることを実現いたしました。

本製品は、フォトアルバムだけでなく、グリーティングカード等さまざまなプリントサイズに対応しており、美しい両面印刷により今後更に写真の楽しみ方を拡げることができる製品として期待しております。

複数台対応 電気自動車用急速充電器を開発

当社は、地球環境に優しい自動車として今後普及が期待される電気自動車向けに、長年培ったバッテリー充電制御技術、パワーエレクトロニクス技術を活用し、30分程度で電池を空に近い状態から80%まで充電することができる、高容量50kwタイプの急速充電器を開発いたしました。

当社の電気自動車用急速充電器は、ひとつの本体に複数の充電スタンドが接続可能であり、予約機能と併用することにより充電完了後の車両放置などの問題を改善した効率的な運用を図ることができます。更に、電源盤の奥行きを

最小限に抑えた業界トップクラスの薄型・コンパクト化を実現したうえ、電源盤本体と充電スタンドが分離できるセパレートタイプであるため、スペースが限られる既存の駐車施設等でも設置しやすいなど、設置箇所の条件に合わせて柔軟に対応することが可能であります。

充電スタンドは利用者が操作しやすいよう、取り回しを考慮したケーブル吊り下げ方式を採用するとともに、液晶ディスプレイによる操作ガイドの利用やタッチパネル操作を可能といたしました。また、雨天時でも利用できる防水構造、各種保護機能による安全設計、設置場所の景観に配慮したスマートなデザイン等、利用者への利便性を追求いたしました。

自治体や公共施設をはじめサービスエリアや商業施設など、あらゆる施設への設置を目指しつつ、今後は、風力発電、水力発電などの新エネルギーとの連携も視野に入れ、電気自動車時代の充電インフラシステムソリューションメーカーとしての展開を図ってまいります。なお、本製品を用いた実証研究が愛知県により採択され、来春からあいち臨空新エネルギー実証研究エリアで、急速充電器の効率的運用方法の検証及び風力発電装置を利用した急速充電器への自然エネルギー適用可能性について、実証研究を行う予定です。



電気自動車用急速充電器

連結貸借対照表 (平成22年9月30日現在)

(単位：百万円)

資産の部	
流動資産	45,211
現金及び預金	7,054
受取手形及び売掛金	17,128
商品及び製品	767
仕掛品	11,599
原材料及び貯蔵品	6,142
その他	2,821
貸倒引当金	△303
固定資産	40,262
有形固定資産	29,174
建物及び構築物(純額)	10,056
土地	14,175
その他(純額)	4,942
無形固定資産	492
のれん	300
その他	192
投資その他の資産	10,596
投資有価証券	4,309
前払年金費用	4,486
その他	2,048
貸倒引当金	△247
資産合計	85,474

負債の部	
流動負債	42,902
支払手形及び買掛金	13,547
短期借入金	22,172
未払法人税等	91
受注損失引当金	432
その他	6,658
固定負債	20,151
長期借入金	14,700
退職給付引当金	589
役員退職慰労引当金	62
環境対策引当金	319
その他	4,478
負債合計	63,053
純資産の部	
株主資本	18,834
資本金	10,156
資本剰余金	452
利益剰余金	8,277
自己株式	△52
評価・換算差額等	3,586
その他有価証券評価差額金	245
繰延ヘッジ損益	△0
土地再評価差額金	3,360
為替換算調整勘定	△19
純資産合計	22,420
負債純資産合計	85,474

連結損益計算書 (平成22年4月 1日より 平成22年9月30日まで)

(単位：百万円)

売上高	31,189
売上原価	24,755
売上総利益	6,433
販売費及び一般管理費	6,417
営業利益	15
営業外収益	98
受取利息	2
受取配当金	41
固定資産売却益	21
補助金収入	11
その他	21
営業外費用	376
支払利息	273
その他	103
経常損失(△)	△262
特別利益	250
貸倒引当金戻入額	250
特別損失	323
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	323
税金等調整前四半期純損失(△)	△336
法人税、住民税及び事業税	57
法人税等調整額	△292
法人税等合計	△234
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△101
四半期純損失(△)	△101

連結キャッシュ・フロー計算書 (平成22年4月 1日より 平成22年9月30日まで)

(単位：百万円)

営業活動によるキャッシュ・フロー	1,940
投資活動によるキャッシュ・フロー	△282
財務活動によるキャッシュ・フロー	△967
現金及び現金同等物に係る換算差額	△11
現金及び現金同等物の増加額	678
現金及び現金同等物の期首残高	6,323
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,002

▶ 財務情報の詳細は、
当社ホームページIRサイトをご覧ください。



<http://www.sinfo-t.jp>

シンフォニアテクノロジー

検索

会社概要

会社名	シンフォニアテクノロジー株式会社
設立	1949年8月（昭和24年）
創業	1917年5月（大正6年）
資本金	101億5,696万円
従業員	3,037人（連結）
本社所在地	〒105-8564 東京都港区芝大門1-1-30 芝NBFタワー

役員

代表取締役社長	武藤昌三
代表取締役副社長	山田英二
代表取締役専務	一木春生
常務取締役	加藤一路
常務取締役	大森誠
取締役	村上亮造
取締役	増子博一
取締役	木本伸一
取締役	古谷浩三
取締役	高下泰治
取締役	斉藤文則
取締役	小原孝秀
取締役	信貴幹夫
取締役	常光茂久
常勤監査役	渡辺壯嘉
常勤監査役	鈴木秀一
監査役（非常勤）	野本俊輔
監査役（非常勤）	廣田邦彦

（注）監査役のうち渡辺壯嘉、野本俊輔及び廣田邦彦は社外監査役であり、東京証券取引所が指定を義務づける一般株主と利益相反が生じるおそれのない独立役員であります。

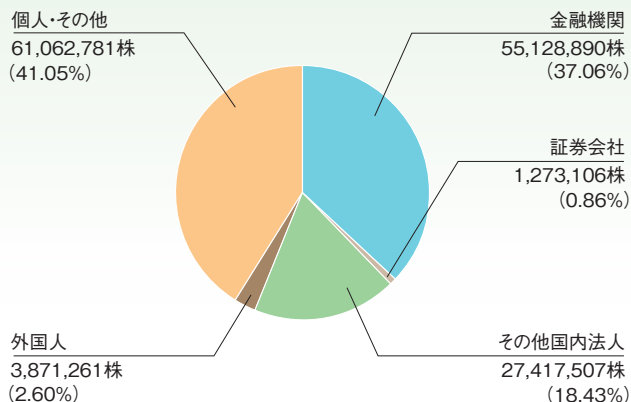
株式の状況

発行可能株式総数	580,000,000株
発行済株式の総数	148,753,545株（自己株式192,066株を除く）
株主数	20,122人
大株主（上位10人）	

株主名	持株数	出資比率
	千株	%
日本マスタートラスト信託銀行(株) 退職給付信託口（(株)神戸製鋼所）	29,483	19.82
ダイキン工業(株)	5,085	3.42
大日本印刷(株)	3,664	2.46
日本マスタートラスト信託銀行(株)（信託口）	3,175	2.13
シンフォニアテクノロジー従業員持株会	3,166	2.13
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)（信託口）	2,551	1.71
ナブテスコ(株)	2,309	1.55
シンフォニアテクノロジー取引先持株会	2,113	1.42
みずほ信託銀行(株)退職給付信託口（(株)神鋼商事(株)） 再信託受託者資産管理サービス信託銀行(株)	2,000	1.34
(株)みずほコーポレート銀行	1,795	1.21

- （注）1. 日本マスタートラスト信託銀行(株)退職給付信託口（(株)神戸製鋼所）の持株数29,483千株は(株)神戸製鋼所から同信託銀行へ信託設定された信託財産です。信託約款上、当該株式の議決権の行使についての指図権限は(株)神戸製鋼所が保有しております。
2. みずほ信託銀行(株)退職給付信託口(神鋼商事(株))再信託受託者資産管理サービス信託銀行(株)の持株数2,000千株は神鋼商事(株)から同信託銀行へ信託設定された信託財産です。信託約款上、当該株式の議決権の行使についての指図権限は神鋼商事(株)が保有しております。
3. 出資比率は自己株式（192,066株）を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況



株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで	
定時株主総会	6月	
基準日	定時株主総会	3月31日
	期末配当金	3月31日
	中間配当金	9月30日
	(その他必要あるときは予め公告します。)	
上場取引所	東京	

株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱所	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120 (78) 2031 (フリーダイヤル) 取次事務は中央三井信託銀行株式会社の全国各支店並びに日本証券代行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。

住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申し出先について

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。
 なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申し出ください。

2009年4月1日、シンフォニアテクノロジーは、
(旧)神鋼電機より社名を変更いたしました。

私たちのコーポレートステートメントです。

響いてこそ技術

いくつもの旋律が聴衆の心に響く
交響曲(シンフォニー)のように。
私たちは製品、サービスを通して

「お客様の心に響く技術」



「地球の未来に響く技術」

「人を大切に想う気持ちに響く技術」



を追い求め、
多彩な技術で新しい時代の
シンフォニーを奏でていきます。

シンフォニア テクノロジー 株式会社

〒105-8564 東京都港区芝大門1-1-30 芝NBFタワー
TEL 03 (5473) 1800
<http://www.sinfo-t.jp>

